



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

8月11・12日に千保川サマークルーズが開催予定ですが、川下りルートは金屋町付近の約400メートルの短区間で、乗舟券は1ドリンク付きで500円だそうです。あわせて金屋緑地公園でオープンカフェの店を出す他、恵比須塔の特別点灯、町並み散策ツアー、婚活イベントなどを組み合わせ、盛り沢山のイベントになるようです。舟はゴムボートでなく、福岡町から笹舟を借りるそうです。

第32回金屋町鳳鳴グリーン会

7月1日、花尾カントリークラブにおいて主題の

ゴルフ大会が開催された。今年は空梅雨かと思わせる好天続きでしたが、この日は久しぶりに雨で一時は強く降



優勝した元井實さん

ったものの、雨などには負け

られないと参加者12名はずぶ濡れになりながら18ホールをラウンドし、上位入賞は次のとおりでした。

優勝＝元井實（老子製作所代表取締役会長）ネット72.4、準優勝＝山本貞明（金屋古町）ネット73.0、3位＝藤田益一（金屋西町）ネット73.6。ちなみに元井さんは44・44＝88とベストグロスで、水平賞も獲得しました。

富山大学芸術文化学部が

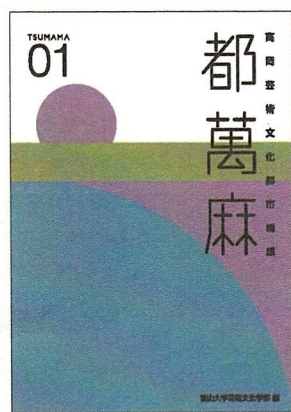
高岡芸術文化都市構想

都萬麻01を出版

日頃何かと金屋町がお世話になっている富山大学の武山先生が中心になって本を出版されたというので、早速読んでみました。また出版記念フ

ォーラムを開催されたので、そちらも聴講してきました。ちなみに今年度中に「都萬麻02」を発売する予定だそうです。

フォーラムでは大阪市立大学教授の佐々木雅幸さんが「創造都市・高岡をめざして」と題して講演されました。佐々木先生の著書「創造都市への挑戦」が受付で販売されていたので、これも買って読んでみました。



発行日 平成24年3月31日 第1刷発行
 編者 富山大学芸術文化学部
 発行者 広瀬貞樹
 発行所 富山大学出版会
 〒930-0887
 富山市五福3190 番地
 TEL.076-431-4310

企画・編集・デザイン 武山良三
 企画・編集協力 大熊敏之
 表紙題字・デザイン 中山真由美

「創造都市＝クリエイティブシティ」という言葉を始めて知ったのですが、新しい都市政策概念として今関心が高まっているそうです。1990年代半ば頃からヨーロッパで、これからの都市政策のあり方として注目されるようになり、近年急速に世界へ広まっているとのこと。そして佐々木先生は創造都市の研究で日本の第一人者だそうです。

「芸術文化都市構想」は「創造都市」と同じような意味で使われているのですが、芸術文化という創造的な活動を通して都市づくり(町並みとただけでなく、産業、経済、コミュニティなどを含む)

をしようという考え方です。

高岡市には鋳物や漆など伝統工芸という芸術があり、それを継続的に育成していく装置として富

山大学芸術文化学部もある。そういう創造的文化的な資源を活かして「芸術文化が香るまちづくり」を推進しようという提案です。

ということは、金屋町のこれからの町づくりにとって、参考になることが多分にありそうな気がしませんか。

金屋町楽市でおなじみの伊東教授も執筆

金屋町楽市とは何か

ゾーンミュージアムの提案。

都萬麻01では17名の人それぞれの立場で執筆し、これからの高岡づくりを提案しているのですが、金屋町ではおなじみの伊東先生が金屋町楽市への思いを書いています。その中で「金屋町楽市」は単なる町おこしのための集客イベントではなく「工芸産業の再生と日本文化の再生モデルを模索する」というテーマを持った実験研究事業であると主張しているのですが、そこにはまさしく高岡を芸術文化都市として再生しようという意図を感じます。

フォーラムや佐々木先生の本の中で、創造都市政策を推進することによって閉塞状態から都市を再生した事例が多々紹介されており、この紙面でお伝えしたいのですが、とても一度に書き切れる情報量ではないので、次号に続きを書きたいと思っています。



空家対策の先進事例

今井まちなみ再生ネットワーク

奈良県橿原市今井町は、戦国末期から江戸時代にかけて栄えた寺内町で、平成5年に重伝建保存地区の選定を受けています。商工業の町から静かな住宅地に変化して存続していますが、全戸の約1割が空き家になっており、人口も江戸期の4,400人から1,300人まで減少していて、不活性であるだけでなくこのままではコミュニティの崩壊にもなりかねないとの危機感から、空家の利活用をはかり町家再生に取り組むことを柱に、既存のまちづくり組織とは別に、地域住民と建築・不動産などの専門家が参画するNPO法人今井まちなみ再生ネットワークが設立された。



大和・町家バンクネットワーク

伝統的町家での居住や店舗開店を希望する人にバンクへ登録してもらい、空家所有者との仲介をして、平成18年からの6年間で30の町家再生に成功している。バンクは単独でなく、奈良県内の伝統的町並みの他地域とサイト運営を通じて相互ネットワーク化し、空家情報を共有して空家と取得希望者のマッチング効率化を図っている。

町暮らし体験館・今井庵

町家への居住希望者が実際に宿泊して町家暮らしを体験できる、貸し住宅を開設している。

今井まち歩き

空家の取得希望者を対象に、実際に今井町へ来てもらい町歩きをしながら空家を紹介する活動を年4回ほど実施している。